

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13052

研究課題名（和文）フランス国立高等芸術学校における「わざ」の創発を通じた教育理論の解明

研究課題名（英文）Theory of Education through the Emergence of "Body Techniques (Waza)" at the Nationale Art School in France

研究代表者

奥井 遼 (Okui, Haruka)

同志社大学・社会学部・准教授

研究者番号：10636054

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、フランス国立芸術学校（とりわけ現代サーカスおよび現代人形劇）でのフィールド調査をもとに、身体を使った「わざ」の習得および創造のプロセスを記述するものである。稽古場面の参与観察で得た事例を分析することにより、「わざの習得をめぐる生きられた経験の記述」および「学びの共同生成の探求」といった理論的成果を得た。成果については、国内外の学会および学術雑誌にて発表した。また調査や発表を通じて研究者や実践者たちとのネットワークを拡大することができた。今後、長期的・組織的な国際共同プロジェクトへの発展可能性が期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、知識伝達型ではない、新たな知の創発の場として学びを捉えるものである。これにより、教え手と学び手とのやり取りの中でわざそれ自体が創発される可能性を含んだ、ダイナミックな学びの構造を解明できる。これは必ずしも芸術学校だけに限られる事例ではなく、学び手のみならず教え手もまた知の創発に刺激を受けるという、教育現場に広く見出しうるような生成的な現象を示唆するものである。例えば学校における教科教育さえも、教え手と学び手との交流を通じて、新しい知の萌芽がミクロに創発しうる場として捉え直すことができる。学校を、知の伝達の場ではなく、知の創造拠点として捉え直すインパクトが得られるだろう。

研究成果の概要（英文）：This study describes the process of acquisition and creation of body techniques (called "waza") through field research in French national school of art, especially of contemporary circus and of marionette. Based on participant observations and interviews, by a phenomenological description, it obtained theoretical results such as "description of lived experiences of learning waza" and "exploration of the co-creation of learning." The results were presented at domestic and international conferences and in academic journals. In addition, this study allowed us to expand our network of researchers and also artists. Potential for development into a long-term, organized international collaboration project is anticipated in the future.

研究分野：現象学的教育学

キーワード：わざ 現象学的教育学 現代サーカス 現代人形劇

1. 研究開始当初の背景

近年教育哲学領域で議論されてきた「身体による学び」あるいは「身体論的教育学」といったテーマは、多様化・複雑化の一途を辿っている今日の教育をめぐる諸課題に、新しい洞察をもたらすかのように見えた。ところが、それらの議論が具体的な教育実践(スポーツ、アート体験、演劇教育等)に結びつくとき、生き生きしていたはずの学びが、かえって子どもたちに窮屈で管理的な活動を強いるというジレンマを抱えることになる。その背景には、身体論的教育学が、「知的作業」を批判し、「身体的認知」を明らかにすることに力を注ぐ一方で、「伝統のわざ」や「規定の動作」等、あらかじめ定められた「コード」を習得するという学習観そのものを再考してこなかったという問題点がある。

「身体による学び」を原理的に考察するならば、あらかじめ定められた「コード」を身につけることを目指すという従来型の学習観を脱却し、学ぶ中で知識そのものが新しく生まれてくるといったダイナミックな現象にこそ目を向けるべきである。こうした観点は、単なる理論的な貢献を超えて、新しい学びの姿を照らし出すことになるように思われた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、若いアーティストたちの養成課程の観察・分析を通して、「わざ」の創発を促す教育理論を解明することにある。学び手が高度な動作を身につけ、一つの作品を生み出す場面において、教え手と学び手との間には、創作を目指した濃密なコミュニケーションが織りなされている。それは、まだ誰も見たことがない新しいわざを確立する取り組みであるという点において、知の「伝達」ではなく「創発」のプロセスである。

そのために、先駆的な学びに取り組んでいる学校でフィールド調査を開始し、稽古における教え手と学び手とのコミュニケーションを分析した。また比較のために、日本国内での調査も実施した。

3. 研究の方法

調査の対象として、主にフランス国立サーカス学校(Centre National des Arts du Cirque) 国立高等人形劇学校(École Nationale Supérieure des Arts de la Marionnette)の稽古場面を取り上げる。フランスでは1980年代以降、教育省と文化省との連携によって、教育と芸術活動を結びつける先端の実践が重ねられてきた。このユニークな学校に関する本格的な、しかも地道なフィールド調査に根ざした研究は、日本はもちろんフランス本国においても、行政文書や個別のメソッドを除けば蓄積がなく、大きなポテンシャルが想定される。

本研究では、ビデオ等による場面の記録およびインタビューを行い、学びのプロセスにおける重要なプロットを抽出・分析した。分析方法としては、フッサール、メルロ=ポンティの現象学的手法を用いた。現象学は、独自の概念を用いて意識の成り立ちと構造を分析する哲学の一分野であるが、人間科学の方法としても、心理学、看護学、芸術学、教育学等の領域においてその有効性が知られている。ここでは、当事者が自覚する以前にすでに成り立っていて、人と人、人や物との間で成立している意味の編み目を記述する手法として用いた。これにより、フィールド調査で記録する稽古場面のデータを題材として、学び手たちの具体的な変容を踏まえながら、現場の生き生きとした意味生成の記述が可能になる。ミクロなコミュニケーションからマクロな文脈まで把握し、わざの創発が生じるまでの過程を精緻かつ包括的に捉えることができるだろう。

4. 研究成果

研究成果は、以下の通り(1)理論的成果(a. わざの習得における生きられた経験の記述、b. 学びの共同生成の記述)、および(2)実践的成果の2つに大別できる。

(1) 理論的成果

a. わざの習得における生きられた経験の記述

身体を使った「わざ」が研究の俎上に載せられるとき、これまで達人の「境地」が注目の的になることが多かった。しかしながら本研究では、新人/達人という区別を前提にするのではなく、当事者において(新人であれ達人であれ)わざを習得することはいかなる経験でありうるのかを問い、その経験を記述することを試みた。具体的な事例として、フランス国立サーカス学校の稽古において、生徒がアクロバティックなわざを成功させるまでのコミュニケーションを探索した(図1)。すでに高いレベルのわざを習得している彼らは、さらに難易度の高いわざにチャレンジしたり、新しい身体表現を探究している。教師と生徒のコミュニケーションを観察することで、当人たちがわざの習得の現場をどのように経験しているのかを解明することができる。成果は、コミュニケーションの相互性、生きられた経験の記述という2点にまとめられる。

具体的には、まず「コミュニケーションの相互性」として、身振りを駆使した双方向的なコミュニケーションが見られた。すなわち、教師も生徒も、自分や相手の動きを全身ないし腕や指で真似することで、相互的な会話を成り立たせていることが明らかになった。その際、相手を「引用」するかのように動作を重ね合わせている。その上で、「生きられた経験の記述」として、わざの習得という経験には、学び手がそれまでに構築した世界との関わりを破壊する契機も控えていることが明らかになった。稽古のコミュニケーションは、こうした瞬間に挑むスリリングな企てにほかならない。以上より、新人にとってであれ、達人にとってであれ、新しいわざに挑戦したり成功させたりすることは、慣れ親しんだ世界の相貌が変容したり、新しく世界の意味が立ち上がった経験にほかならない。こうした経験を記述することで、従来論じられてきた「一直線的な成長図式」を批判的に捉え、よりダイナミックな経験としてその変容を捉える方途を示すことができた。

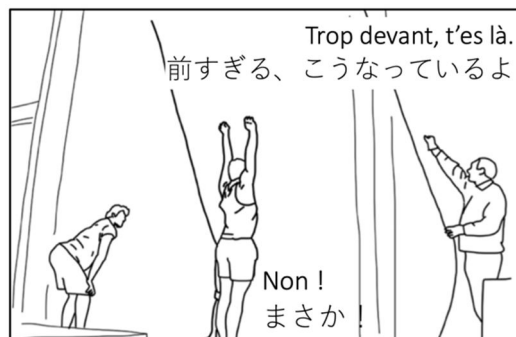


図1. 生徒 教師の感覚のズレ

b. 学びの共同生成の記述

以上の成果は、学びのありようそれ自体の見直しにも波及した。学校のように制度化された教育現場は、従来「形式的教育 (formal education)」として理解され、その硬直化した学びのありようはしばしば批判の対象ともなってきた。しかしながら本研究では、学校において柔軟に設計されたカリキュラムに着目することで、必ずしも硬直化しない学びのありようを見出した。具体的



図2. 仕掛け (truc) を提供する教師

には、フランス国立人形劇学校の授業を対象としたフィールド調査を行い、その授業において、教師 (プロのアーティスト) と生徒 (若い学び手) との関わりを考察した (図2)。明らかになったのは、教師と生徒の間で「模倣」や「参加」と表現しうるような関わり合いが生じていることであり、これらは徒弟制や共同体への参加を軸とした「非形式的教育 (informal education)」の特徴と一致する。国立学校という制度化された教育の場において、形式的な知識の習得はもちろん、実践的な知識の習得も可能になるのであって、それが硬直化しがちなカリキュラムを柔軟に保つ契機となりうることを示された。

加えて本研究では、従来の非形式的教育論を越えて、知識そのものが新しく形成されていくプロセスをも見出した。すなわち、教師は物作りや表現方法などをめぐって手持ちの「仕掛け (truc)」を提供するが、生徒たちは、その仕掛けをきっかけとして、それぞれ自らの舞台表現に必要なスキルや知識を学ぶ。その知は、教師から伝達されるというよりも、むしろそれを越えて新しく生成されるようなものである。ここに、知識伝達型ではない、新たな知の創発の場としての学びのありようを捉えることができる。創発の場として学びを捉えることは、必ずしも芸術学校だけに限られる事例ではなく、学び手のみならず教手も新たな知の創発に刺激を受けるといふ、教育現場に広く見出しうるような生成的な現象を示唆するものである。

(2) 実践的成果 国際的共同研究の実施、および学部・大学院生教育の機会創出

以上の理論的成果に加え、本研究では、国内はもちろん、国際的共同研究のネットワークを構築することができた。研究期間中、コロナ禍による一時的な停滞は見られたものの、海外調査や、複数の国際学会への参加を継続することができた。具体的には、軸となってきた教育哲学関連学会での活動 (学会発表や論文の執筆) のほか、現象学をはじめとする哲学、人類学などの社会科学の領域でも知的・人的ネットワークが広がってきた。これに加え、以前から参加していたパリ・シテ大学 (旧: パリ第V大学) との共同プロジェクトも少しずつ前進している。これは、身体哲学をベースとする、スポーツや芸術活動についての共同研究であり、研究期間中、国際的共著本の編集・刊行、複数の国際共著論文の掲載といった成果に結実した。

また本研究を起点として、フランスとの共同研究のワークショップの機会を創出することができた。具体的には、研究代表者の本務校にてフランス人研究者の講演会やワークショップを開催し、学部生や大学院生の参加を得、若い世代の海外留学や海外調査のきっかけを作るなど国際経験のサポートにつながるような仕組みづくりが進んだ。将来的には、長期的・組織的な国際共同プロジェクトへの発展可能性が期待される。またアカデミックな活動の延長線上で、アーティストたちとの実践的な交流も続けており、教育現場と芸術活動を接続させるような試みを、とりわけ学部生を中心とした活動として実験的に行った。こうした活動は今後、学部生に限らず子どもや市民に向けて学びの機会を創出するための実践的な足場となりうるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Okui Haruka, Legendre Alexandre	4. 巻 76
2. 論文標題 Gestural interactions in the intensive training of Waza at a puppet theater	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Techniques et culture	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/tc.16927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 奥井遼	4. 巻 25
2. 論文標題 わざの習得とコミュニケーション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メルロ = ボンティ研究	6. 最初と最後の頁 89-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 奥井遼	4. 巻 165
2. 論文標題 絵・知覚・コミュニケーション—子どもにおける身体と表現	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Haruka OKUI	4. 巻 22
2. 論文標題 Deformation of the Human Body: Bunraku Puppetry Technique and the Collaborative Body Schema	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Chiasmi International	6. 最初と最後の頁 351-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥井遼	4. 巻 30
2. 論文標題 形をなしていく学び フランス国立人形劇学校における影演劇ワークショップより	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育文化	6. 最初と最後の頁 300-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥井遼	4. 巻 28
2. 論文標題 言葉の共同生成について 人形劇学校の事例からメルロ=ポンティを読み解く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 111-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruka Okui	4. 巻 35
2. 論文標題 When the Body Schema Emerges: Comments on Gallagher through a Case of Puppetry	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bernard Andrieu, Josephine Buffet, Cyril Thomas, Haruka Okui, Petrucia da Nobrega	4. 巻 2 (2)
2. 論文標題 Self-Care after Severe Injuries in Circus Artists: A Philosophical Inquiry	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Philosophical Journal of Conflict and Violence	6. 最初と最後の頁 395-404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 奥井遼	4. 巻 8
2. 論文標題 わざが跳躍するとき フランス現代サーカス学校的一幕より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 身心変容技法研究	6. 最初と最後の頁 16-2323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥井遼	4. 巻 28
2. 論文標題 わざ言語と身体的相互行為 人形遣いの稽古におけるコミュニケーションの創発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育文化	6. 最初と最後の頁 157-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 奥井遼
2. 発表標題 フランス身体哲学の展開 わざの稽古にみる創発論
3. 学会等名 身心変容技法オンライン・セミナー2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥井遼
2. 発表標題 わざの習得とコミュニケーション
3. 学会等名 メルロ=ポンティ・サークル第26回研究大会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haruka OKUI
2. 発表標題 Gestural Interactions on the Intensive Training of Waza at a Puppet Theater
3. 学会等名 Techniques & Culture International Meetings, "Waza on the Move Ineffable arts of learning", (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥井遼
2. 発表標題 型・段取り・間 人形浄瑠璃における三人遣いの間合い
3. 学会等名 第17回間合い研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haruka Okui
2. 発表標題 The Interactive Body Schema in Japanese Puppetry
3. 学会等名 International Workshop of "Radical Embodied Cognition" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 経験可能性を共有する 現代サーカスの稽古における身体図式の現象学的記述
2. 発表標題 サーカスと身心変容技法
3. 学会等名 第62回教育哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Haruka Okui
2. 発表標題 Skilled Interactions and Natural Movements in Japanese Puppetry
3. 学会等名 International Society of East Asian Philosophy 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥井遼
2. 発表標題 フランス現代サーカスの稽古と身心変容技法
3. 学会等名 身心変容技法研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋徹, 中澤雄飛, 陳洋明, 田中愛, 奥井遼
2. 発表標題 学校体育で育てる身体を考える
3. 学会等名 日本体育・スポーツ哲学会第40回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥井遼
2. 発表標題 「わざ」の習得場面にみる関係論的身体論
3. 学会等名 第28回教育文化学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野文生、下司晶、大塚類、杉田浩崇、奥井遼
2. 発表標題 教育哲学の境界を問うー教育哲学は何を射程に含めうるか
3. 学会等名 第61回教育哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shaun Gallagher, Dan Hutto, Jesus Ilundain-Agurruza, Michael D. Kirchoff, Katsunori Miyahara, Yuko Ishihara, Masumi Nagasaka, Haruka Okui, Asuka Suehisa, Tetsuya Kono
2. 発表標題 Phenomenology of Skilled Performance
3. 学会等名 第40回日本現象学会研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥井遼
2. 発表標題 サーカスと身心変容技法
3. 学会等名 身心変容技法研究会国際シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Alexandre Legendre, Haruka Okui	4. 発行年 2021年
2. 出版社 L'Harmattan	5. 総ページ数 216
3. 書名 Experiences du corp vivant	

1. 著者名 鎌田東二、熊野宏昭、林紀行、井上ウィマラ、稲葉俊郎、濱田覚、藤守創、中田英之、張明亮、河合俊雄、阪上正巳、野村理朗、松田和郎、古谷寛治、町田宗鳳、柿沼敏江、藤枝守、高橋悟、松嶋健、今福龍太、安田登、西平直、ベルナルド・アンドリュウ、奥井遼、小西賢吾、金香淑、アルタンジョラー、木村はるみ、加藤之晴、島園進	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本能率協会マネジメントセンター	5. 総ページ数 624
3. 書名 身心変容と医療 / 表現 - 近代と伝統	

1. 著者名 井藤元, 尾崎博美, 高宮正貴, 渡邊福太郎, 山本一生, 小室弘毅, 畠山大, 奥井遼, 井谷伸彦, 河野桃子, 米川泉子, 苜野一徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 284
3. 書名 ワークで学ぶ教育学〔増補改訂版〕	

1. 著者名 Bernard Andrieu, Cyril Thomas, Haruka Okui, Catherine Scott	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Presses universitaires de Rouen et du Havre	5. 総ページ数 110
3. 書名 Learning from Your Body.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

フランス	Universite Paris Cite	Centre national des arts du cirque	Institut international de la marionnette	
------	-----------------------	---------------------------------------	---	--